

#### 目的

- **◯** Wi-Fi環境のない家庭にNWを構築し、学習環境を充実させたい
- □ 授業内で、アウトプットを増やす活動を増やしたい
- □ 社会で必要とされる力を育て、生徒たちの可能性を広げたい

## アプローチ

- ✓ LTEタブレットで生徒がいつでもどこでも学べる環境を構築
- ✓ ICTで知識習得の時間を短縮、協働学習の時間を創出
- ✔ アクティブラーニングを充実させ、新しい学びを実現

## LTEタブレットを導入し、場所にとらわれない学習を実現

2015年にWi-Fiモデルのタブレットで一人1台を実施した桐蔭学園。2019年度の新1年生からは、場所にとらわれない使い方を求めて、LTE モデルのタブレットに変更。アクティブラーニングを重要視する桐蔭学園では、タブレットで授業を効率化し、生徒たちのアウトプットを増やす 学習が実践されています。

## 家庭によって異なるWi-Fi環境、タブレット導入5年目でLTEモデルへ移行



2014年に創立50周年を迎えた桐蔭学園は、学校改革の一環としてアク ティブラーニングを取入れた授業改善に着手しました。その手段として、 翌2015年度の新中学1年生からタブレットの一人1台を実施。 同学園 ICT 教育推進センター長の林謙介氏は「アクティブラーニングを実施するに あたり、ICTを活用して授業を効率化し、協働学習の時間を創出したいと 考えていました」と述べています。 <mark>知識習得の時間をICTで短縮し、生徒</mark> <mark>が主体的に学べる学習活動へ。</mark>タブレットを新しい文房具として活用し、

こうした経緯で導入されたタブレットですが、桐蔭学園では当初、Wi-Fi モデルを選択していました。しかし、2019年度の新1年生からはLTEタブ



レットに変更。その理由として林氏は「家庭によって異な るWi-Fi環境をどうにかしたいと考えていました。ドコモ に決めたのは、補償などのトータルサポートが充実して おり安心して使えるからです | と話してくれました。タブ レットで提出する宿題も増え、場所を問わず使える環境 が求められるようになってきたといいます。

学びのスタイルを変えていこうとしたのです。





### 学校法人桐蔭学園

〒225-0025 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614 URL: http://toin.ac.jp/

桐蔭学園(神奈川県横浜市)は、野球やラグ ビー、サッカー、柔道など、高校の部活動が強 豪校として全国に知られる有名校。幼稚部から 大学・大学院までを擁する総合学園で、高等 学校は2018年度に、中等教育学校は2019年 度に共学化しました。県内トップクラスの進学 校でもあり、「自ら考え判断し行動できる子ども たち」を教育ビジョンに掲げ、自立的学習能力 の育成をめざしています。



[取材協力] 学校法人桐蔭学園

## 生徒たちの考えをオープンにする学習で、学ぶ意欲を高める



## リアルタイムで進捗を把握できる、タブレットならではのメリットを実感

中等1年国語の授業では、「物語を正しく読もう」をテーマに授業支援ツールを用いた学習が行われま した。誰が何をし、どうなったのか。物語の基本構造を読み解き、内容を要約します。授業の後半は、 生徒たちが作成した要約を全体で共有し発表。同じ物語を読んでいるにも関わらず、<mark>人によって要約し</mark> た内容が異なる結果を目の当たりにし、"正しく読む"ことの大切さを学びました。

この授業を受け持つ橋本雄介教諭は、タブレットを活用したポイントについて、「<mark>"書く"、"消す"の作</mark> 業が簡単になり、自分の考えをまとめやすい。間違えることが恥ずかしい年頃の生徒たちも、全員の意 見を共有することで、友達の意見を見ながら自分の考えをまとめることができます | と話しています。 一方で教師の方も、生徒全員の進捗と解答をリアルタイムに把握できるのがメリット。必要に応じて瞬 時に言葉をかけたり、アドバイスをしたりと、紙のワークシートではできない双方向性が生まれます。

## 自分の意見を伝えることを意識、学習を楽しめる環境へ

「考える途中をオープンにすることで、<mark>自分の考えを視覚的に捉える</mark>ようになってきました」と 橋本教諭。友達に自分の意見を伝えようと意識し、考えることに対するこだわりが見られるとい うのです。「学ぶことを楽しめるようになってきたと思います」と同教諭は手応えを語ってくれま

した。ほかにも橋本教諭は、古文の 音読テストなどでタブレットを使用。 自宅で古文を音読し、その成果を動 画で撮影して提出するなど家庭学習 にも活用を広げています。







# アクティブラーニングの充実にICTは欠かせない



## 授業の効率化によって、生徒たちの表現を引き出せた

アクティブラーニングの実施とタブレットの導入から5年の月日が過ぎた 桐蔭学園。橋本教諭は全体を振り返り「ICTを活用することで板書を書く 作業が減り、授業のスピードが早くなりました。その分、空いた時間で生 徒のアウトプットを増やす活動が増え、授業に対する満足度も上がってき <mark>ている</mark>と感じます」と話しています。



なかでも橋本教諭が、生徒の変化を感じるのは探究学習。どうすれば自分たちの調べた内容が

相手に伝わるのか。生徒たちは教師が教えなくても、<mark>キーワードや写真の見せ方を工夫しながらスライドにわかりやすくまとめ、発表できるように</mark> <mark>なってきた</mark>といいます。教師の予想以上に、ICTの活用は生徒たちの多様な表現を引き出し、学びを充実させているというのです。

## タブレットを活用して、生徒たちの可能性を広げたい

タブレットを文房具として自然に使いこなし、当たり前のツールとして自分たちの学習に活かす。林氏は こうした学び方について、"新しい進学校のかたち"だと話しています。「単に大学受験のために勉強するので はなく、社会で必要とされる力の育成も求められています。そのためにアクティブラーニングを取入れ、ICT スキルの育成にも取組んできました。中学・高校の間に正しい使い方を身につけてほしいですね」と林氏。

今後について同氏は、「LTEタブレットを活用し、校外学習や探求学習、キャリア教育などを推進していき たいです」と話しています。新しい学びに挑戦し、生徒たちの可能性をさらに広げていきたい考えです。



株式会社NTTドコモ

お問い合わせ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター( €0120-808-539) 受付時間 平日午前9時~午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま 教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\_ict/

